

群馬県 御中

分析レポート

こども・若者にとっての理想の生活と
それを実現するために必要なことは何
ですか？

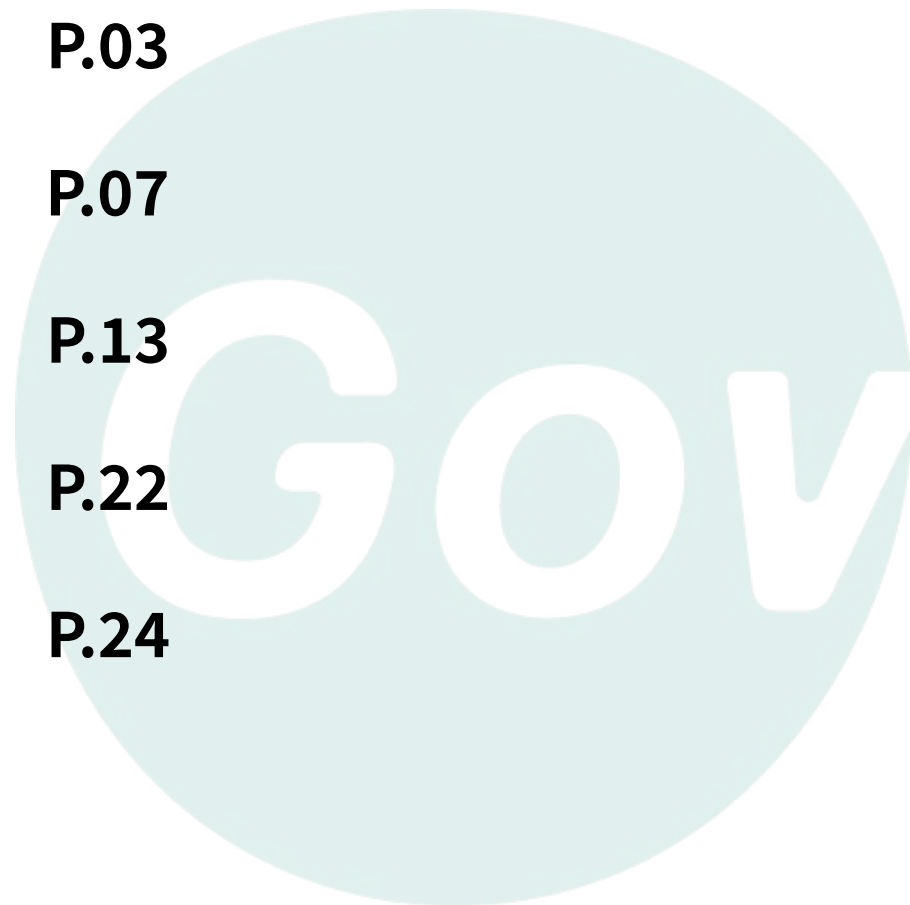
PoliPoli Gov

2024年01月31日



目次

01.意見募集の概要・実施結果	P.03
02.対象ごとのカテゴリ分析	P.07
03.テーマ別（①～③）分析	P.13
04.いいねが多かった意見	P.22
05.全体考察	P.24



意見募集の概要・実施結果

- 実施内容：こども計画策定にあたり、こども・若者らの「理想の生活」に関する意見募集を行った。
- 調査方法：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- 意見募集のテーマ：こども・若者にとっての理想の生活とそれを実現するために必要なことは何ですか？
- 調査期間：2023/09/05～2023/11/30（87日間）
- 調査地域：全国オンライン
- ページ閲覧数：5,611PV
- 総コメントユーザー数：245人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- 総コメント投稿数：303件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- 総いいね数：681件
- 回答者の属性
 - 年代（必須回答）：小学生, 中学生, 15歳～18歳未満（高校生世代）, 18歳～25歳未満, 25歳～30歳未満, 30代, 40代, 50代, 60代以上
 - 群馬県との関わり（必須回答）：群馬に居住・通勤・通学している, 過去、群馬に居住・通勤/通学した, 観光などで群馬を訪れた, 群馬を訪れたことはない
 - （お子さんがいる場合）お子さんの年代：未就学児（0歳～）, 小学生, 中学生, 15歳～18歳未満（高校生世代）, 18歳以上

意見募集の仕組み

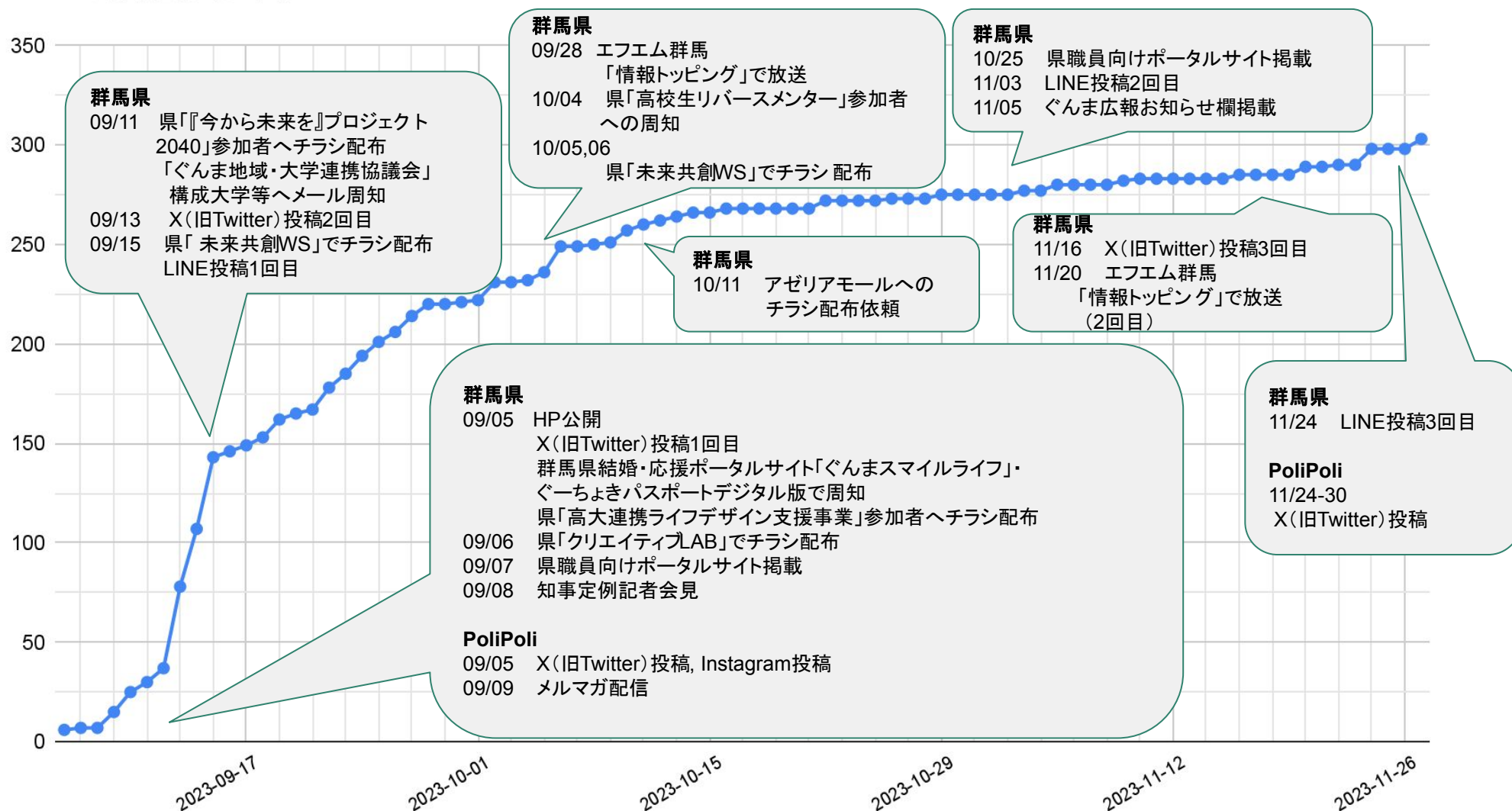


※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



意見募集の概要・実施結果 | コメント数の日次推移

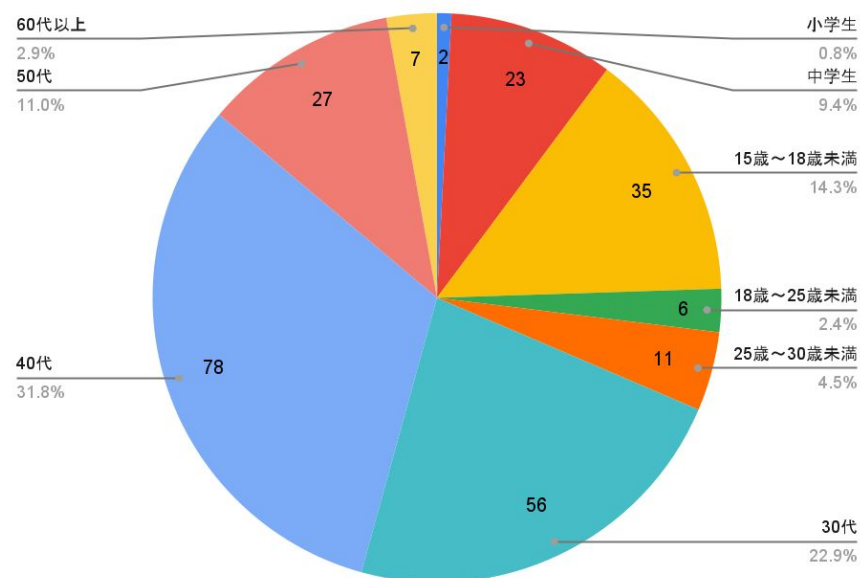
コメント数推移(日次)



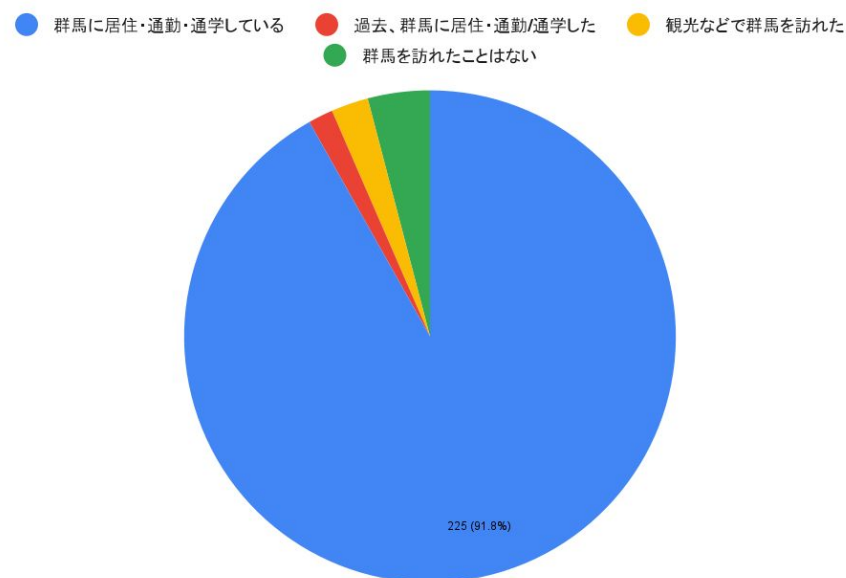
意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

- 年代について、小学生2人（0.8%）、中学生23人（9.4%）、15歳～18歳未満（高校生世代）35人（14.3%）と、**高校生以下の回答者が約4分の1**を占めた。また、40代以下の回答者は211人で、全体の86.1%となった。
- 回答者の年代について、小学生は2人であったが、小学生の子を持つ親の回答者は36人であった。親子で会話した上でこどもの意見を投稿しているコメントも複数あったため、小学生の意見も2人という数値以上のコメントが集まった。
- 群馬県との関わりについては、225人（91.8%）が群馬県に居住・通勤・通学している回答者であった。

年代(UU 245人)



群馬県との関わり(UU 245人)

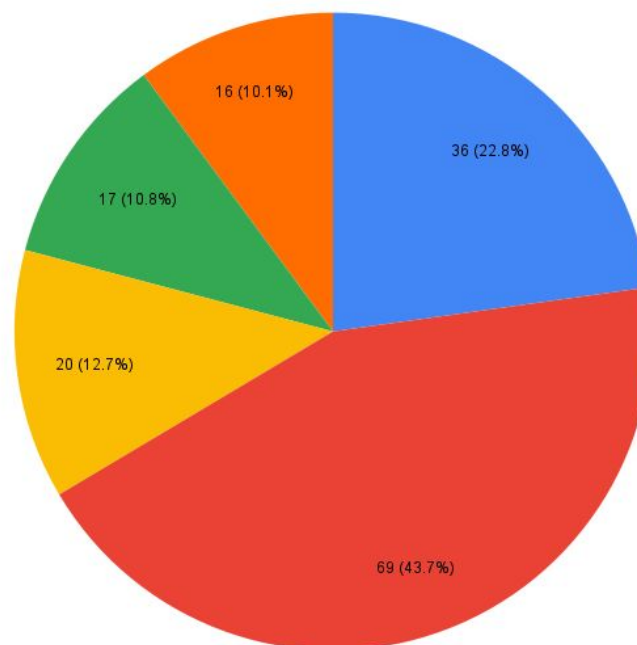


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

- こどものいる回答者は158人で、全体の64.5%であった。こどもの内訳は、未就学児が36人（22.8%）、小学生が69人（43.7%）、中学生が20人（12.7%）、15歳～18歳未満（高校生世代）が17人（10.8%）、18歳以上が16人（10.1%）であった。

こどもの年代(UU 158人)【非回答除く】

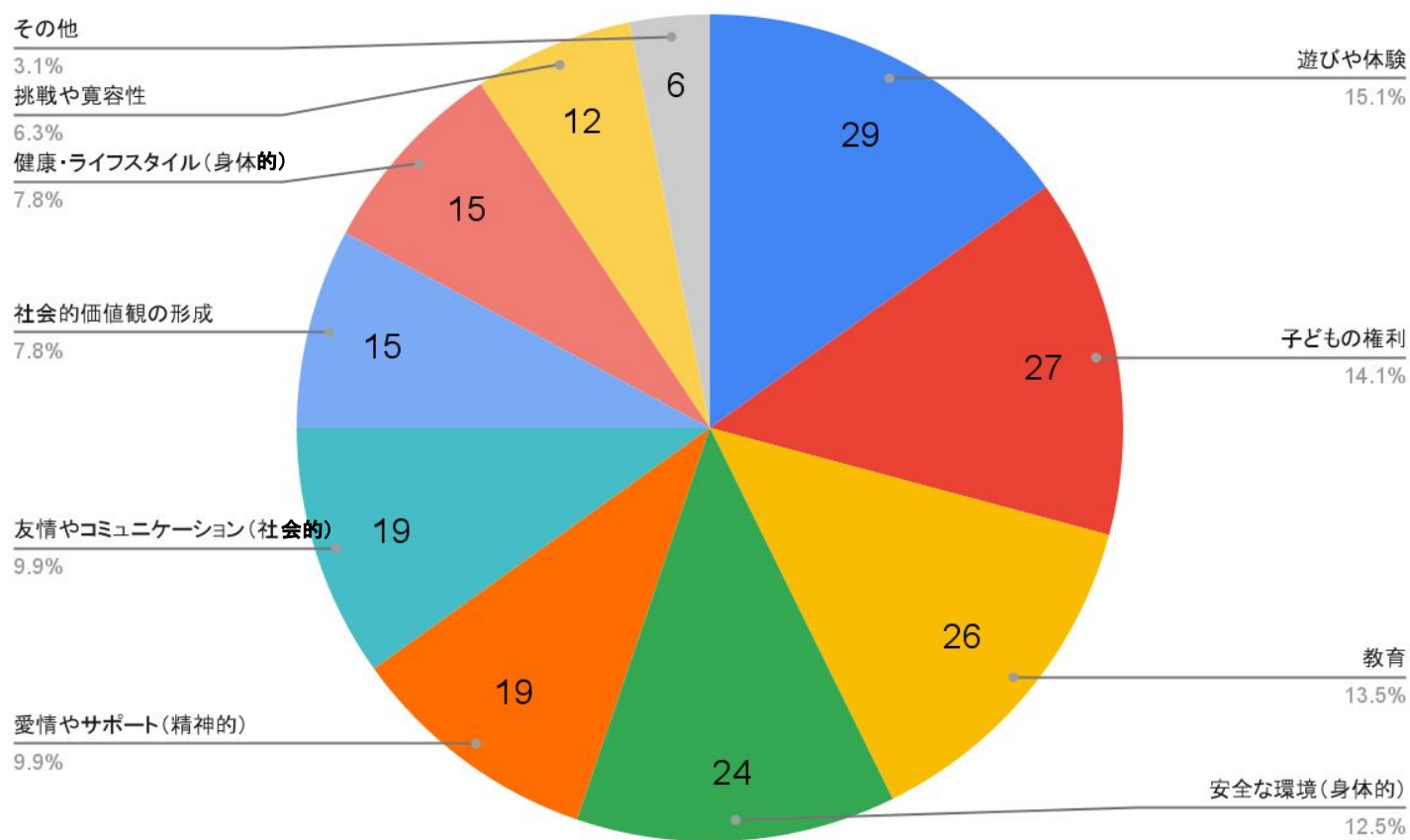
- 未就学児(0歳～)
- 小学生
- 中学生
- 15歳～18歳未満(高校生世代)
- 18歳以上



カテゴリごとの分析 | ①こどもの理想の生活

- こどもの理想の生活に関するコメントカテゴライズを行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。

※1つのコメントで複数カテゴライズしたものを含む。



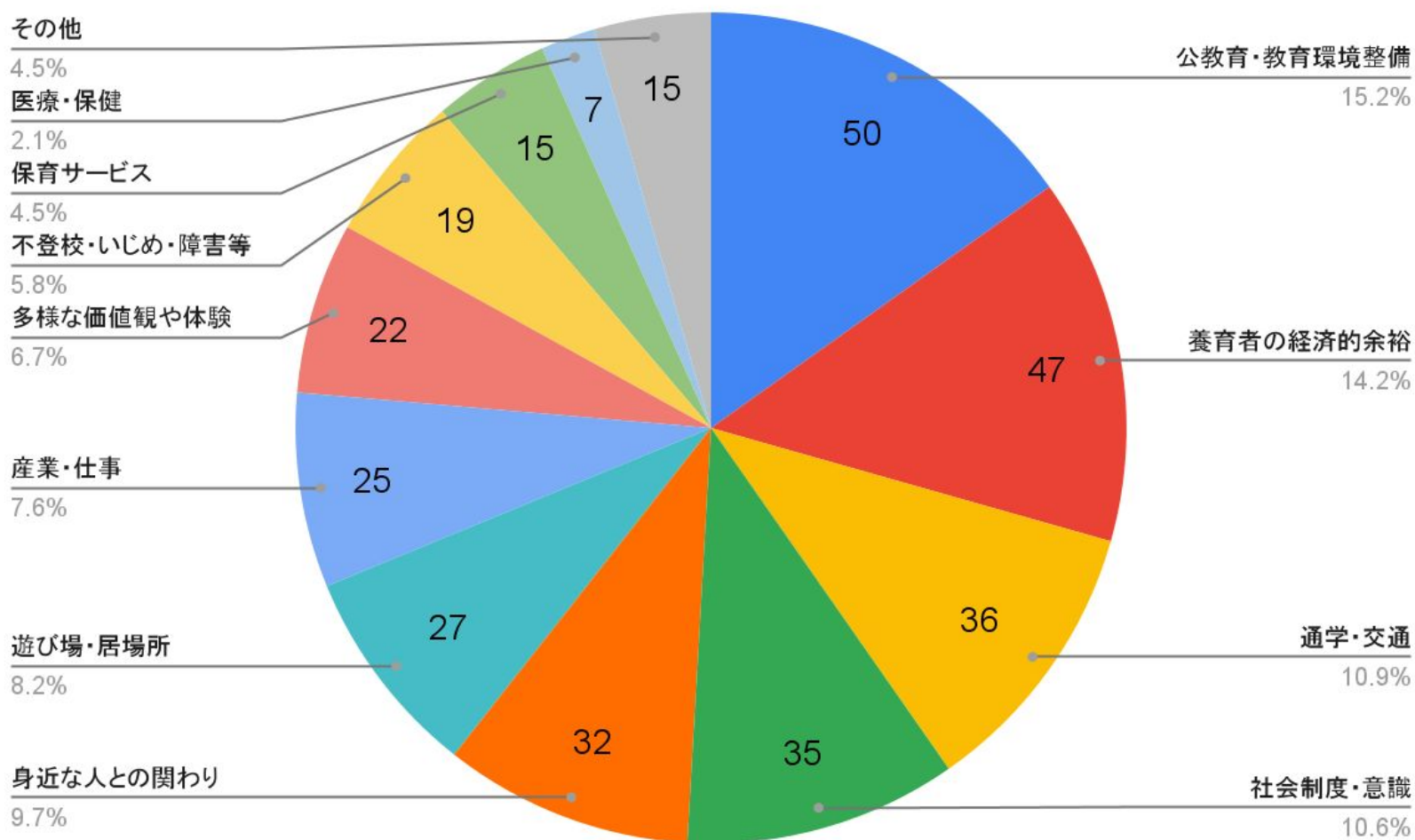
カテゴリごとの分析 | ①こどもの理想の生活

カテゴリ①「こどもの理想の生活」に関するコメントの約40%が、こどもの遊びや学び、権利に関することとなった。

- **遊びや体験**
 - 勉強だけにとらわれず好きなことに没頭する時間や自然と触れ合う時間があること。非認知能力を育む環境や体験が提供されること。
- **子どもの権利**
 - 家庭の状況に関わらず平等な機会が得られること。自分で意思決定ができること。一個人として尊重されること。
- **教育**
 - 大学以上の高等教育を受けられること。これからの不確実な時代を生きるため、働き方や社会について学ぶ多くの機会が提供されること。子ども自身が学びたいことを学べること。
- **安全な環境（身体的）**
 - 交通事故や事件に巻き込まれる危険性がないこと。暑さによる熱中症等、身体の不調を防止できること。
- **愛情やサポート（精神的）, 友情やコミュニケーション（社会的）**
 - 家族や友人、教員等とコミュニケーションが取れていること。それにより安定した精神状態が保てていること。自分が必要とされている、愛されていると感じられるような機会があること。
- **社会的価値観の形成**
 - 勉強・成績・学校が全てとはならないよう、学校や家庭以外の居場所があること。多様な価値観を認め合える環境。
- **健康・ライフスタイル（身体的）**
 - 食事や睡眠などにより体調が整っていること。
- **挑戦や寛容性**
 - 新たなことにチャレンジできる環境。また、周りの大人に見守ってもらえる、応援してもらえること。

カテゴリごとの分析 | ②必要な意識・行動・支援

- こどもの理想の生活に必要な意識・行動・支援についてのコメントカテゴライズを行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。
※1つのコメントで複数カテゴライズしたものを含む。



カテゴリごとの分析 | ②必要な意識・行動・支援

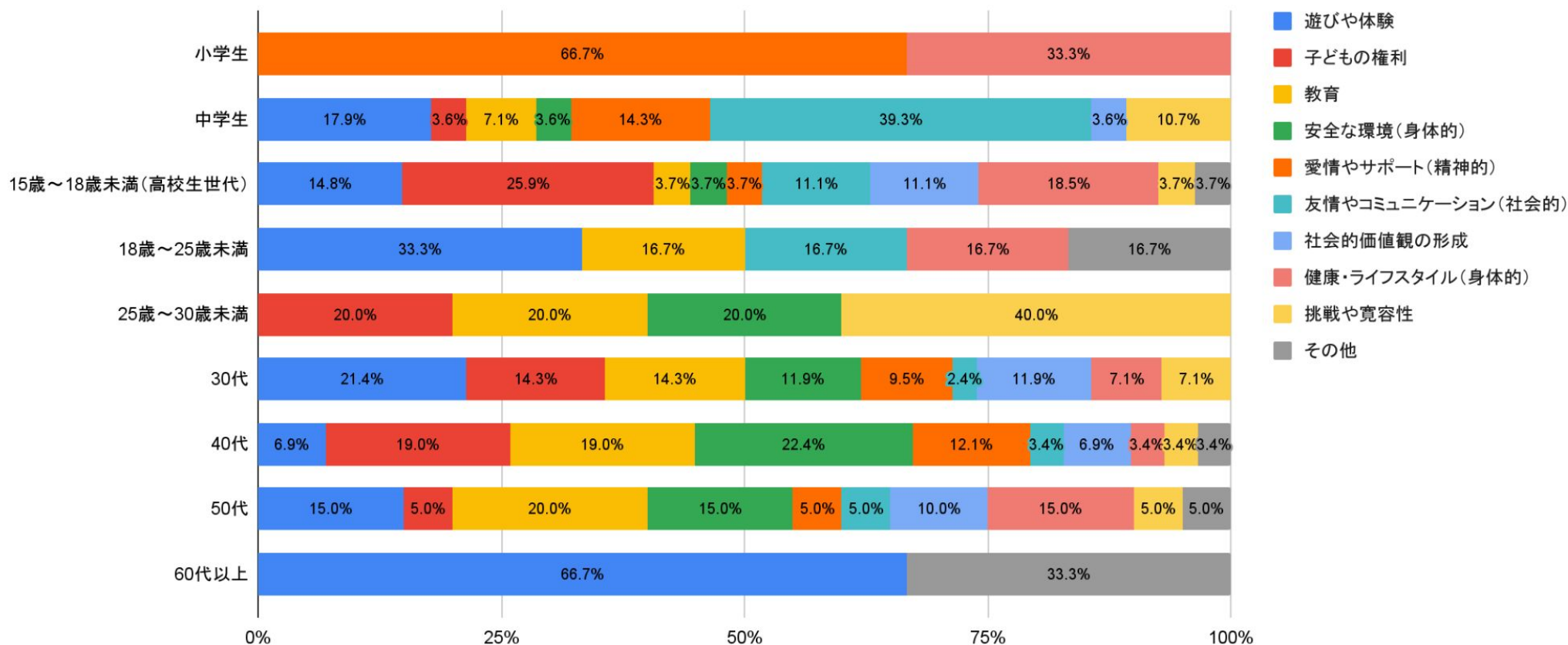
カテゴリ②「必要な意識・行動・支援」については、教育や養育者の経済的余裕に関するコメントがそれぞれ約15%を占め、最も多かった。

- **公教育・教育環境整備**
 - 時代に応じた教育の質の向上、校内環境の改善、ブラック校則の廃止などに関すること
- **養育者の経済的余裕**
 - 経済的余裕があれば長時間働く必要がなく、子どもと過ごす時間も多く確保できること。教育費の不安がなければ子どもを持つことへの不安も少なくなること。子どもの理想の生活を実現するためには、まず経済的余裕が重要だと感じている回答者が多数。
- **通学・交通**
 - 通学バス・電車など公共交通機関の拡充や、車社会ならではの自転車通学への危険性などに関すること。
- **社会制度・意識**
 - 既存制度の変革（主に育成会）、子どもの意思決定プロセスへの参加要望など。
- **その他**
 - 商業施設や遊び場の拡充など地方ならではの不便さに関すること、地方経済の活性化への期待。

カテゴリごとの分析 | カテゴリ①×年代のクロス分析

- カテゴリ①「こどもの理想の生活」について、年代別のクロス分析を行ったところ、以下のとおりとなった。

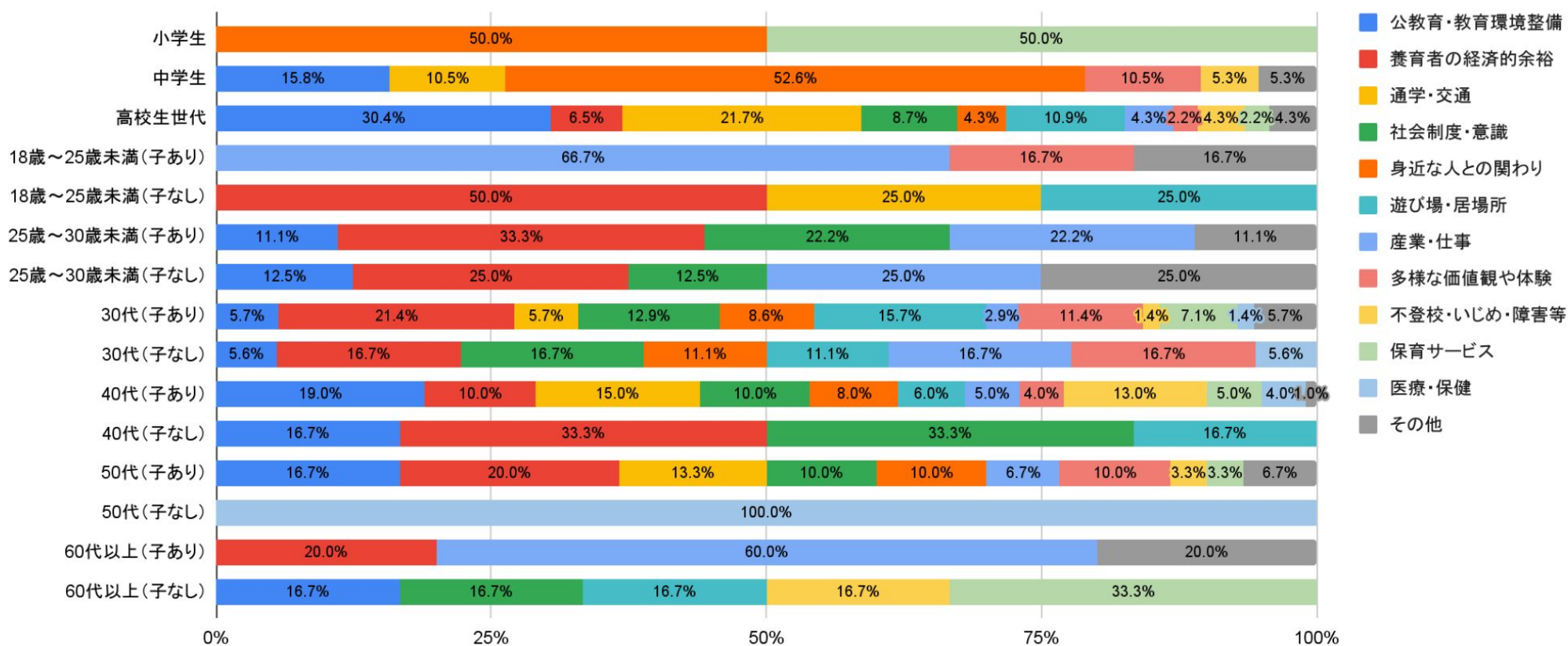
年代×カテゴリ①



カテゴリごとの分析 | カテゴリ②×年代&子の有無のクロス分析

- カテゴリ②「必要な意識・行動・支援」について、年代（子の有無）別のクロス分析を行ったところ、以下のとおりとなった。

年代(子の有無)×カテゴリ



テーマ別 | ①こども自身・育ちに関係する理想

代表的なコメント（一部要約）

【こどもの意見】

- 1日のみの体験などでいいから、とにかく様々な文化に触れる機会を多く作ってほしい。幼い頃からたくさんの文化に触れることで自分が本当に好きだと思えるもの、やっていて心地の良いものに出会いたい、成長した時それを自分の武器にすることができると思う。（県内・中学生）
- 自分のやりたいことができる。（県内・中学生）
- 友達と遊ぶこと、家族と喋ること。（県内・中学生）
- 自分の友達や家族、先生に褒められたり、頼りにされたりすること。親や先生には見守ってほしい。（県内・中学生）
- 学校に行くことが辛くならないようにしてほしい。
先生に相談しても、自分が思ってるほど重く受けとってくれないし、それだと、次から相談することも嫌になる。（県内・高校生世代）
- 日本では、いじめられている人がカウンセリングなどを受けているが、世界では、いじめる方が病んでいるという考え方で、いじめている人にカウンセリングを受けさせる。両方に目を向けてくれる親や先生が必要と思う。（県内・中学生）
- ブラック校則の廃止。個性を活かせる学校生活を！！（県内・高校生世代）
- 常に味方になってくれる人がそばにいてほしい。学校にはいつでも相談に乗ってくれる友達や話しやすい先生がいて、家に帰ると必ず自分のことを肯定してくれる親や兄弟がいる。そんな生活が送れると安心して温かい気持ちで過ごせると思う。（県内・中学生）

テーマ別 | ①こども自身・育ちに関係する理想

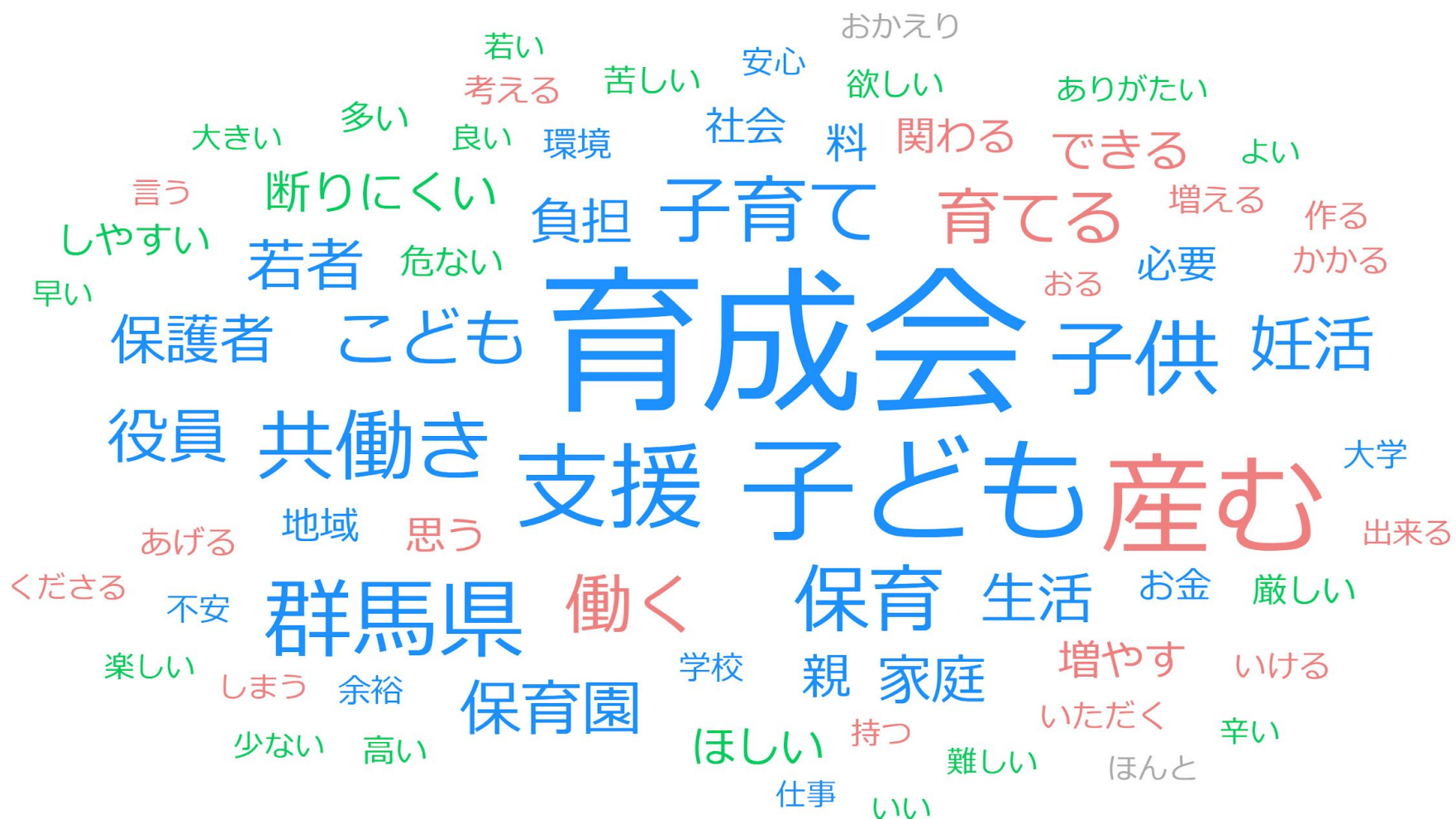
代表的なコメント（一部要約）

【大人の意見】

- 中高生が友だちとスポーツや体を動かして遊んだり、リフレッシュできる施設があると良い。小学生までの子どもには手厚い安心できる環境が整っているが、小学高学年～中高生が健全に過ごすには、勉強だけでなく体を動かし、食事を美味しく食べることが大切。（県内・40代）
- 楽しく通える学校があること。（県内・40代）
- 一人一人が自分のやりたいことをできる、楽しめる生活を送れること。誰かに言われたことをするのではなく、自分自身で考えたことを実行するのが重要であるという価値観を持ってほしい。（大人としても、）そのような思いを持った若者を否定するのではなく、チャレンジさせて多少失敗しながらでも成長できるよう支援したい。（県内・40代）

テーマ別 | ②子育て世帯や養育者にとっての理想・必要なこと

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示したもの。投稿されたコメントをもとに作成。
※ユーザーローカル テキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）による分析



テーマ別 | ②子育て世帯や養育者にとっての理想・必要なこと

代表的なコメント（一部要約）

【こどもの意見】

- 休みたいときに休みが取りやすいようにする環境。声掛けや息抜きができる環境。（県内・高校生世代）
- お金があまり無くても子どもを産むことができるような金銭的な補助をしてほしい。（県内・高校生世代）
- 休みにはしっかり休むことができ、定時に帰ることができる。（県内・高校生世代）
- 大学に行くのが当たり前みたいな世の中なのに、高校・大学の学費が高いので支援してほしい。（県内・高校生世代）

【大人の意見】

- 経済格差で子供の進路が狭まらず、誰でも学びたい人が自由に学べること。奨学金などもあるが、入学金や準備金として事前に使えないのは不便。親の収入に関わらず大学や専門なども完全無償化にしてほしい。それがひいては将来的に社会に貢献できる大人へと子供を成長させる事に繋がると思う。（県内・40代）

テーマ別 | ②子育て世帯や養育者にとっての理想・必要なこと

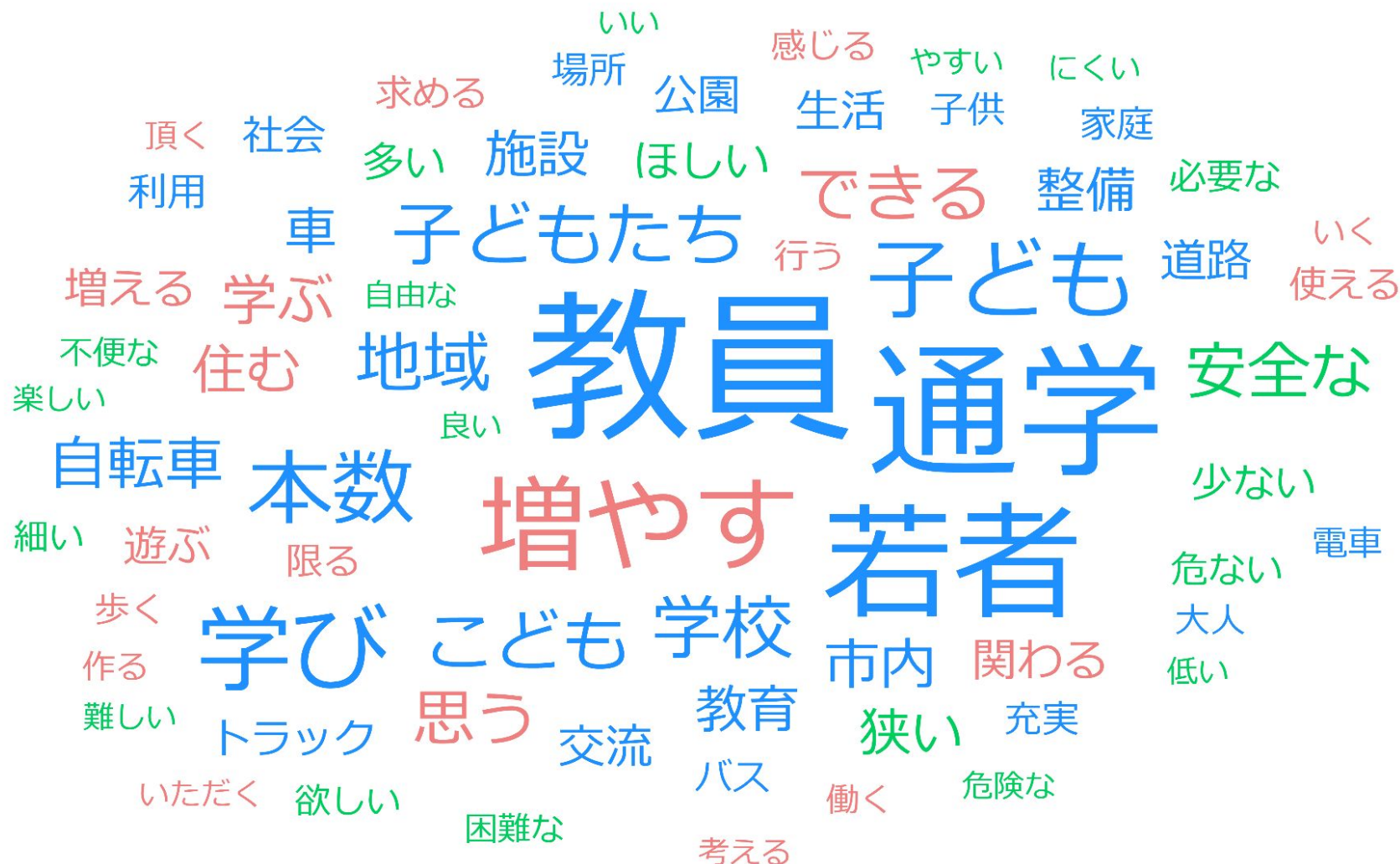
代表的なコメント（一部要約）

【大人の意見】

- 共働きの家庭が増えたことにより、今の子ども達は親との関わる時間が大変短くなっていると思う。休日も育成会などの役員やPTAなどで時間がないし、部活動などの送迎などにより、小学生の子どもを1人で家に置いておくことも多く、子どものためと言いつつ子どもが犠牲になっている。PTAや育成会などが原因で子どもにストレスをぶつかけたり、子どもを作るのをやめる家庭も実際にある。様々な面で親の負担を減らすことで余裕ができ、親子共々生活しやすい世の中になっていくと思う。（県内・40代）
- 妊活の費用に保険がきくようになったので助かりますが、やはりまだ金額が高い。仕事をしながら妊活をしているが、休みたいときに休めず両立が大変。妊活中の人が専念できるような生活ができたら良いと思う。（県内・40代）

テーマ別 | ③社会全体の機運醸成やまちづくり、行政施策に求めること

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示したもの。投稿されたコメントをもとに作成。
※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析



テーマ別 | ③社会全体の機運醸成やまちづくり、行政施策に求めること

代表的なコメント（一部要約）

【こどもの意見】

- 最低賃金をあげてほしい。若者が群馬から離れていく理由のひとつになっていると思う。どれだけ働いても群馬だと損するなら他の県に住んだ方がいいと感じているので、早く群馬から出たいと思うことが多い。（県内・高校生世代）
- 学校のエアコンを充実させてほしい。（県内・高校生世代）
- 電車やバスの本数をもっと増やしていただくと、通勤・通学の際にとっても楽になると思う。（県内・高校生世代）
- 公立高校の行事をどこも平等にしてほしい。（例：修学旅行の行き先） 電車の本数を増やしてほしい。（県内・高校生世代）
- なにかのテーマパークや遊び場があったらいいと思う。（県内・高校生世代）
- 自転車で通りにくいところがあるので、自転車が通りやすい道にしてほしい。（県内・高校生世代）

テーマ別 | ③社会全体の機運醸成やまちづくり、行政施策に求めること

代表的なコメント（一部要約）

【大人の意見】

- 学校への道の整備をしてほしい。安全に登下校できるよう、県道や学校や駅までのメインの道路には歩道を設け、小さな子からお年寄りまで安心して暮らせる地域にしたなら、老若男女が集まる群馬県になるんじゃないかと思う。（県内・40代）
- 魅力的な就職先がたくさんあること。働き口がたくさんあれば好きな仕事も選べる、人が集まり便利になっていく。経済的にも豊かになって交流も盛んになる。子育て支援も受けられるなど、質の高い生活ができると思う。企業誘致やインフラ整備をお願いしたい。（県内・40代）
- 学校で子どもに人権教育を施すのみならず、教職員向けの研修も充実させてほしい。社会人経験者の教員採用や、教員に別業種を一定期間経験する研修の実施など。人材の多様性、人的資源の向上をはかり、教員の業務負担軽減、ストレスの緩和を促していただきたい。教職員の充実、レベルアップが子どもの学校生活充実のキーではないか。（家庭生活の充実が前提ですが。）
また、学校が閉鎖的で、自浄能力が低いために起きた問題を報道でよく見聞きする。子どもたちが困っている時、学校、家庭は臆せず誠実に向き合いたいものです。教員が解決に努めた時、それを報告し評価される仕組みがあってほしい。（県内・40代）

いいねが多かった意見（一部抜粋）

- いいね数20件
- 『こどもにとっての理想の生活』

私は、もっとたくさんの時間を家族で過ごすことが、こどもにとっての理想の生活だと思います。国から「保育園を作るから、こどもを預けて働け働け」と0歳や1歳の内から保育園に預け、働いてる方が多いですね。自分の生活のため、そして国のために働くことは必要ですが、お父さんにもお母さんにも時間がなさすぎます。**こどもと接する時間がありません。**今のこども達に必要なのは、保育園ではない。**親や家族、地域の人などからの愛情**だと思います。もちろん、働く事が好きなお母さんは働いて良いと思います。でも、**子育てをしたいのにそれが叶わない人もいる事を知ってください。**もっとこどもに接してきたいのに、育休手当をもらったから復帰しなければいけなかったり、生活のために働かなければいけない人もいます。幼少期に心がとても発達します。どうか、とりあえず数を増やさなければと預かるだけの保育園を増やすのではなく、**もっと自分で育児が出来るような仕組みを作ってください。**（県内・40代）

いいねが多かった意見（一部抜粋）

- いいね数16件
- 『小学4年男子の意見』

僕の理想の生活は、学校から帰ると「おかえり」と迎えてくれる家族がいることです。

低学年の頃は学童に通っていました。

学校で疲れていても、毎日学童に行き、アレはダメこれはダメとルールばかりの場所に居るのがしんどかった。周りの子がすぐケンカになるのを見るのもしんどかった。

高学年になり、学童に行かなくなったけど、学校から帰っても家に誰もいなくて寂しい。

夏休みは一日中一人で過ごして、本当に悲しかった。

お父さんお母さんともっと一緒に過ごしたい。

3年生の時「いじめアンケート」に嫌な思いをしている事を書きました。

勇気を出して書いたのに、先生は何もしてくれませんでした。

話を聞いて欲しかったです。嫌な事をする子に注意をして欲しかったです。

先生が僕たちの話をよく聞いてくれて、勉強以外の時間がもっと増えて、**学校がもっと楽しい場所になる**といいなと思います。（県内・40代）

全体考察

- カテゴリ①、②と年代とのクロス分析において以下のことが読み取れる。
 - **小学生**はカテゴリ①において愛情やサポートの割合が他世代より多く、カテゴリ②においても身近な人との関わりの割合が多いことから、**家族など身近な人からの愛情を必要としていること。**
 - **中学生**においては、カテゴリ①において友情やコミュニケーションの割合が他世代より多く、カテゴリ②においても身近な人との関わりの割合が多いことから、**学校生活・対人関係について精神的なサポートを必要としていること。**
 - **高校生**はカテゴリ①に小中学生ほど大きな偏りはなかったが、カテゴリ②においては公教育・教育環境整備や通学・交通に関する割合が多く、**1日の中で長時間過ごすことになる学校環境やそれに伴う通学環境の向上を求めていること。**
- カテゴリ②と年代（子の有無）のクロス分析において、**18歳～30歳未満の世代**において、養育者の経済的余裕を重要視とするコメントが他世代より多く、**経済的不安**を抱えていることにより、**子どもを持つこと・育てることに不安がある**ことが読み取れる。また、40代以上の世代でも子どもを持つ回答者においては、**経済的な不安が一定程度ある**ことが読み取れる。
- 理想の生活や必要な意識・行動・支援に関して様々な意見が寄せられたが、カテゴリや年代に関わらず**教育現場・学校に関連するニーズが多かった**。勉強だけではない**挑戦や体験、多様な柔軟な価値観の形成**等を必要とするコメントなどが寄せられたが、教育現場だけではなく、行政や地域とも連携をしながら、**社会全体でこどもを応援する仕組みをつくり、こどもや子育て世代のウェルビーイングを向上させる必要がある**と考えられる。

PoliPoli Gov